TOSHIBA

東芝非常業務リモコン取扱説明書

対象機種	ARF-1000RCシリーズ ARC-1000RC 10局 ARC-2000RC 20局 （AWF-1000RCシリーズ専用非常業務リモコン）

このたびは東芝非常業務リモコンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
お求めの非常業務リモコンを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになったあとは必ず保存してください。

目　次

ご注意　文中で本体とあるのは「AWF-1000RCシリーズ」の壁掛形非常放送アンプ本体をさします。

工事店様へ 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。
お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

各部のなまえ

〔単位：mm〕

①非常起動スイッチ
②火災灯
③非常復旧スイッチ
④主電源/非常電源電圧計
⑤蓄電池点検スイッチ
⑥連動一斉表示灯
⑦連動停止注意灯
⑧マイク指示灯
⑨非常・業務兼用マイクロホン
⑩モニタスピーカ
⑪モニタ音量調節器
⑫主電源表示灯
⑬充電中表示灯
⑭リモコン回線異常表示灯
⑮コンピュータ異常表示灯
⑯蓄電池異常表示灯
⑰他機放送中表示灯
⑱放送可能表示灯
⑲放送出力レベル計
⑳火災音用ブザー
㉑発報放送表示灯
㉒火災放送表示灯
㉓火災放送スイッチ
㉔非火災放送表示灯
㉕非火災放送スイッチ
㉖音声警報指示灯
㉗放送復旧スイッチ
㉘チャイムスイッチ
㉙一斉放送スイッチ
㉚ブロック選択スイッチ
㉛放送階選択指示灯
㉜出火階表示灯
㉝階別作動表示灯(短絡表示灯兼用)
㉞放送階選択スイッチ

各部のなまえとはたらき
電源
主電源/非常電源
-10% +10%
20 24 30V
蓄電池点検
主電源
④主電源/非常電源電圧計
●常時は主電源電圧を表示します。
●蓄電池点検時は、蓄電池の電圧を表示します。
⑤蓄電池点検スイッチ
●蓄電池の電圧を点検するときに押します。
①非常起動スイッチ
●手動で非常放送するときおよび火災放送するときに押します。
②火災灯
●自火報(自動火災報知設備)または非常起動スイッチからの起動により点灯または点滅します。
●感知器起動時および手動起動時の火災放送移行への第1タイマー動作中は点滅します。
③非常復旧スイッチ
●非常放送終了時に押します。
●非常放送が復旧します。
発報連動
連動一斉
連動停止
⑥連動一斉表示灯
●自火報との連動を連動一斉に設定したときに点灯します。
●設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。
⑦連動停止注意灯
●自火報との連動を停止に設定したときに点灯します。
●設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。
⑧マイク指示灯
●非常放送時点滅により操作手順を知らせます。
●マイク放送しているときは点灯します。
⑨非常・業務兼用マイクロホン
●トークスイッチを押しながら放送します。
⑩モニタスピーカ
●放送内容をモニタできます。
●非常放送時は操作ガイドの音声もでます。
電源
主電源
充電中
⑫主電源表示灯
●電源が供給されているとき点灯します。
⑬充電中表示灯
●常用電源(AC 100V)を受電中、内蔵の蓄電池を充電しているときに点灯します。
⑪モニタ音量調節器
●モニタスピーカの音量を調節できます。大、中、小の3段階に調節できます。
●非常・業務兼用マイクロホンを使用時にはハウリング防止のため、トークスイッチを押すと自動的にモニタ音量は低下します。
異常
リモコン回線
コンピュータ
蓄電池
⑭リモコン回線異常表示灯
本体と非常業務リモコン間の回線に異常があると点灯します。
⑮コンピュータ異常表示灯
コンピュータに異常が生じると点灯します。
⑯蓄電池異常表示灯
蓄電池に異常が生じると点灯します。
動作
他機放送中
放送可能
出力レベル
-10 -5 0 -3 -6 dB
⑰他機放送中表示灯
●非常業務リモコン放送、業務リモコン放送および外部放送等をしているとき点灯します。
⑱放送可能表示灯
●本体の放送階選択スイッチ、一斉スイッチおよびブロックスイッチを押して放送可能な状態となると点灯します。
⑲放送出力レベル計
●放送される音の出力レベルを表示し、音の大小に応じて点灯します。
●音が大きすぎると赤色が点灯します。緑色が点灯する範囲でご使用ください。
3 音声警報
発報
火災
非火災
㉖音声警報指示灯
●非常放送時点滅により、操作手順を知らせます。
㉑発報放送表示灯
●発報放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。
(点灯中が放送)
㉒火災放送表示灯
●火災放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。
(点灯中が放送)
㉔非火災放送表示灯
●非火災放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。
(点灯中が放送)
㉓火災放送スイッチ
●火災放送するときに押します。
㉕非火災放送スイッチ
●非火災放送するときに押します
TOSHIBA
非常起動
火 災
㉗放送復旧スイッチ
●放送終了時に押します。
●選択されていた回線が解除され復旧します。
●ただし第2タイマータイムアップ後(一斉火災放送状態で)は復旧操作はできません。
㉘チャイムスイッチ
●放送前の予告音としてチャイム音を放送する時に押します
●4音の電子チャイム音が、1回放送されます
㉙一斉放送スイッチ
●非常および業務放送時、全回線一斉に放送するときに押します。
●再度押すと復旧します。
●ただし 第2タイマータイムアップ後(一斉火災放送状態で)は復旧操作はできません。
㉚ブロック選択スイッチ
●業務放送時、ブロック指定した回線に放送するときに押します
㉛放送階選択指示灯
●非常放送時点滅により操作手順を知らせます。
●非常放送時は、放送階が選択されると点灯します。
●業務放送時は、緊急放送のとき点灯します。
㉜出火階表示灯
●自火報(自動火災報知設備)等から起動がかかると点灯し、出火階を表示します
㉝階別作動表示灯(短絡表示灯兼用)
●放送先が選択され放送可能になったとき点灯します
●スピーカ回線が短絡すると保護ヒューズが溶断しその回線は自動的に切り離され作動表示灯は点滅します
㉞放送階選択スイッチ
●非常または業務放送時、階別または系統別に放送するときに押します。
●再度押すと復旧します。
●ただし第2タイマータイムアップ後(一斉火災放送状態で)は復旧操作はできません。
⑳火災音用ブザー
●非常放送時の火災音用のブザーです。

マイク扉内

㉗発報連動停止スイッチ

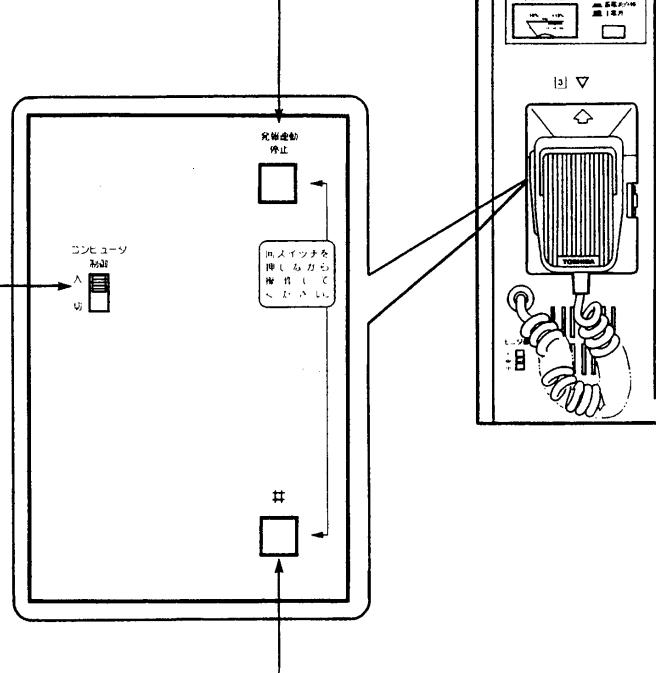
- 感知器からの起動時の連動条件を設定します。
- 囲スイッチを押しながら押しますと順次モードが下表のとおり変わり、表示灯が点灯、消灯します。

モード	⑥連動一斉表示灯	⑦連動停止表示灯
連　動	消　灯	消　灯
連動一斉	点　灯	消　灯
連動停止	消　灯	点　灯

㉟コンピュータ制御スイッチ

- 通常は「入」の位置にします。
- 異常等で修理した後は、このスイッチを「切」にしてから「入」にしてください。正常の動作に戻ります。（コンピュータのリセットスイッチとなります。）
- コンピュータが異常となったとき、コンピュータ制御スイッチを「切」にすると非常・業務兼用マイクロホンによりー斉緊急放送ができます。

㊱囲スイッチ

- 発報連動停止スイッチを押すときに押します。

特にご注意を

■通風のよい場所に設置してください。

●湿度の高い所や温度の高い所での使用は避けてください。またリモコンの通風孔をふさぐようなことはおやめください。操作の妨げにならないよう左右0.3m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。

■認定品ですから改造は絶対にしないでください。

■分電盤のスイッチは絶対に切らないでください。

●停電時でも放送できるよう非常電源(本体側)が組み込まれており、常に充電していますので分電盤のスイッチは絶対に切らないようにしてください。

■異物は感電や故障の原因となります。

●機器内にピンなどの金属物が入った場合、故障、感電、火災などの原因になり大変危険です。万一金属物が入ったときはすぐにお買いあげの販売店か、お近くの東芝お客様ご相談センターにご連絡ください。

■汚れを落とすときは、中性洗剤(台所用)をご使用ください。シンナーやベンジン、または化学ぞうきんなどを使用しますと変形、変色することがありますので絶対に使用しないでください。

設置上のご注意

本機は消防法に適合した機種です。本機の設置場所は消防法で次のように規定されています。

①

> 操作部又は遠隔操作器のうち一のものは守衛室等常時人がいる場所(中央管理室が設けられている場合には当該中央管理室)に設けること。
> ー消防法施行規則第25条の2の3のルー

②

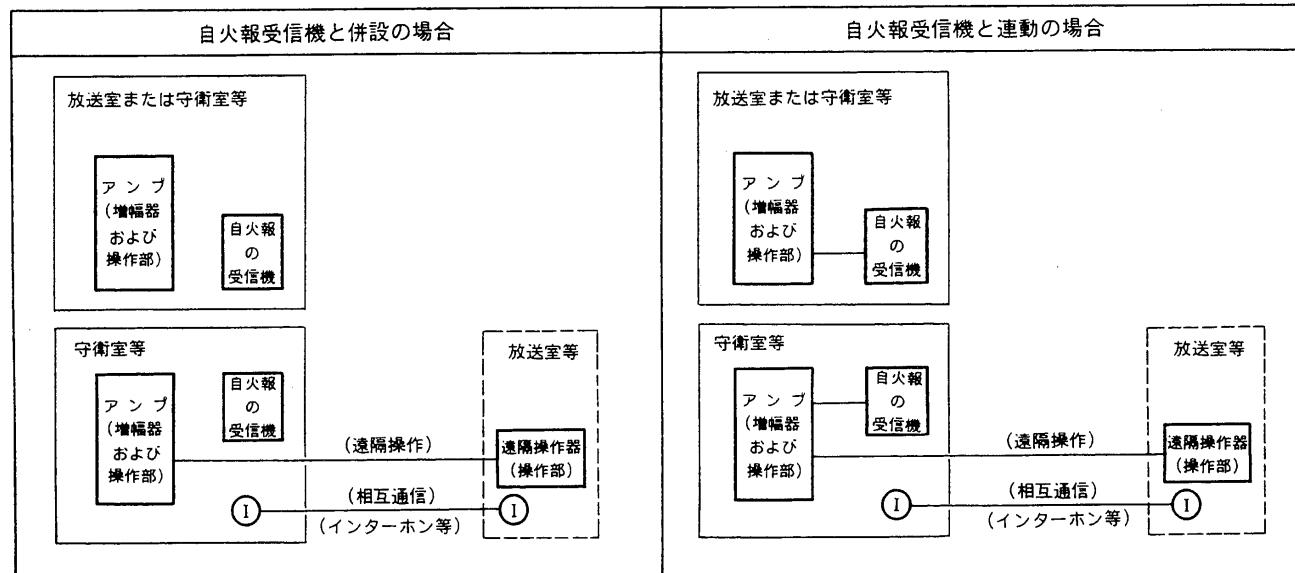
> 増幅器、操作部及び遠隔操作器は点検に便利でかつ、防火上有効な措置を講じた位置に設けること。
> ー消防法施行規則第25条の2の3のトー

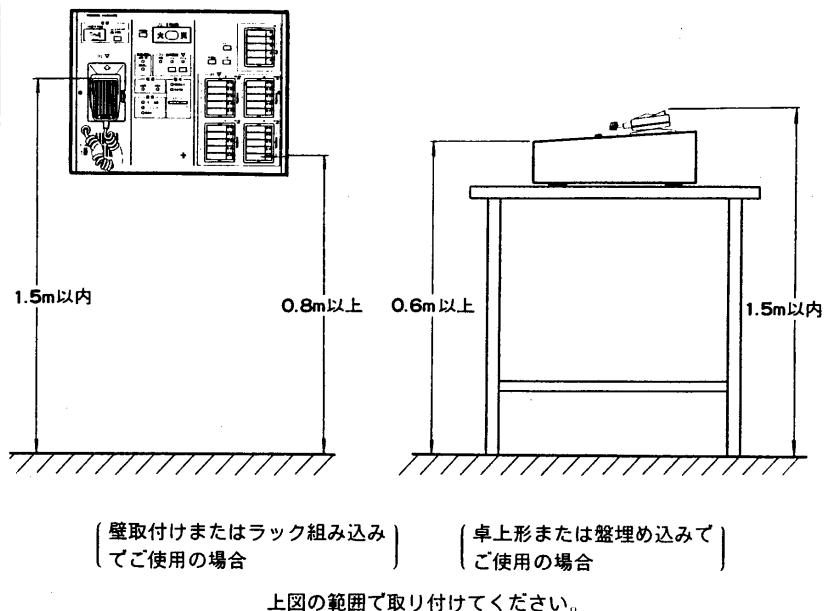
●ここで防火上有効な措置を講じた位置とは、当該設備を設置する防火対象物のうち、壁、床および天井が不燃材料で造られており、その開口部は甲種防火戸を設けた室をいいます。

③

> 一の防火対象物に二以上の操作部又は遠隔操作器が設けられているときは、これらの操作部又は遠隔操作器のある場所相互で同時に通話することができる設備を設けており、かつ、いずれの操作部又は遠隔操作器からも当該防火対象物の全区域に火災を報知することができるものであること。
> ー消防法施行規則第25条2の3のヲー

●本機(増幅器、操作部)の設置方法には下記の4種類が考えられます。なお、下記の実線で表わした部屋は常時人がいて、①②③項を満足していなければなりません。

●報知区域については操作部又は遠隔操作器が1以上守衛室等常時人がいる場所に設けられていれば、遠隔操作器等から報知できる区域を防火対象物全域としないことができる場合があります。
(消防予第22号の5)

④

操作部および遠隔操作器の操作スイッチは、床面からの高さが0.8m（いすに座って操作するものにあっては0.6m）以上1.5m以下の箇所に設けること。

配線について

本機の配線工事は、電気工作物にかかわる法令の規定によるほか、消防法の規定によります。

①壁掛形本体～本機までの配線

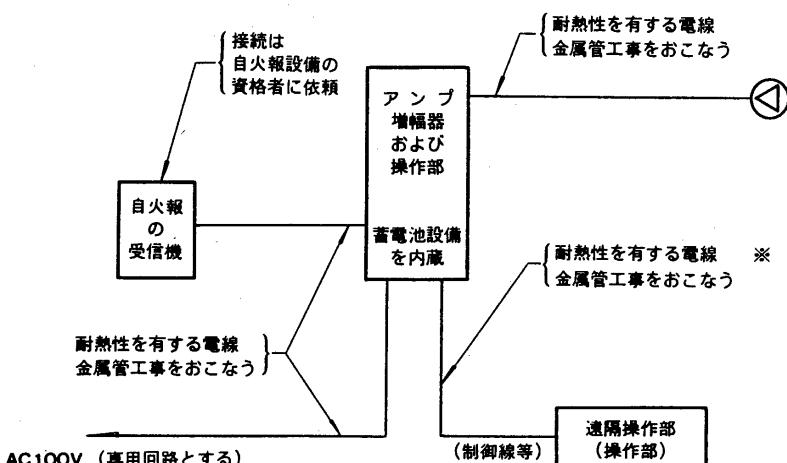
イ、600ボルト耐熱ビニル絶縁電線または これと同等以上の耐熱性を有する電線を使用すること。

ロ、金属管工事、可とう管線管工事、金属ダクト工事、またはケーブル工事（不燃性のダクトに布設するものに限る）により設けること。ただし消防庁長官が定める基準に適合する電線を使用する場合はこの限りでない。

－消防法施工規則第25条の２の四の二－

－消防法施行規則第12条の１の５－

●消防庁長官が定める基準に適合する電線とは耐熱電線のことであり消防庁告示第10号に規定する基準に合格した電線です。この耐熱電線を使用すれば金属管工事等は不用です。

●本機および壁掛形本体の配線をまとめると次のようになります。

※ノイズの混入を避けるためツイストペアケーブルをご使用ください。

設置のしかた

● 本機は卓上形、壁取付形、ラック（または盤）埋め込み形のいずれの取り付けでもご使用できます。
それぞれの取り付け用として、次の取付金具（別売）が必要です。

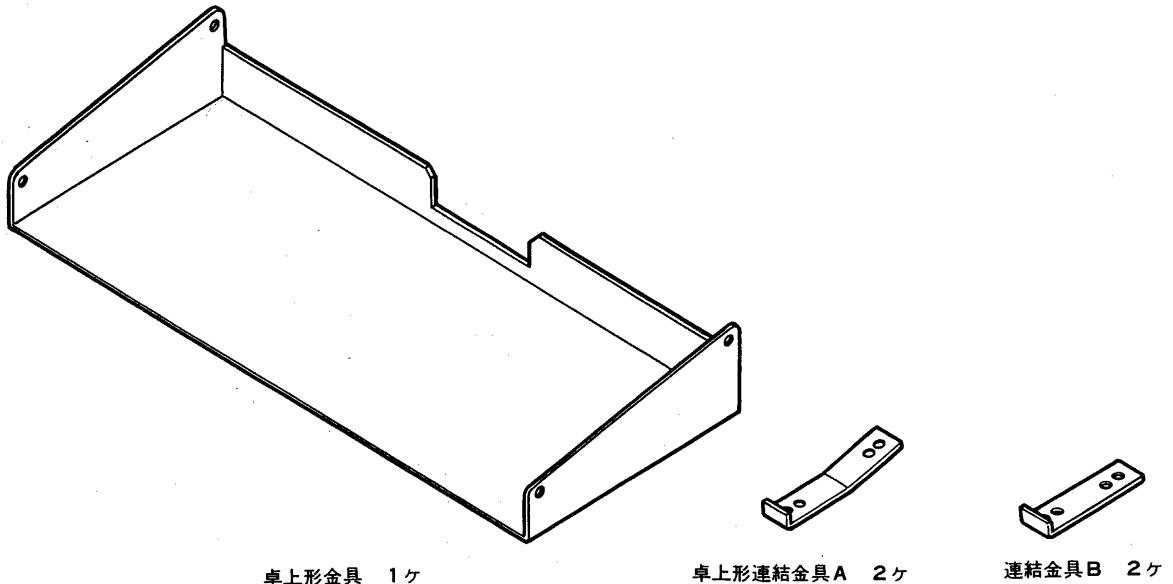
卓上形使用の場合……………………………………卓上形金具（形名：LAD-9002）

壁取付形使用の場合…………………………………壁取付形金具（形名：LAD-9003）

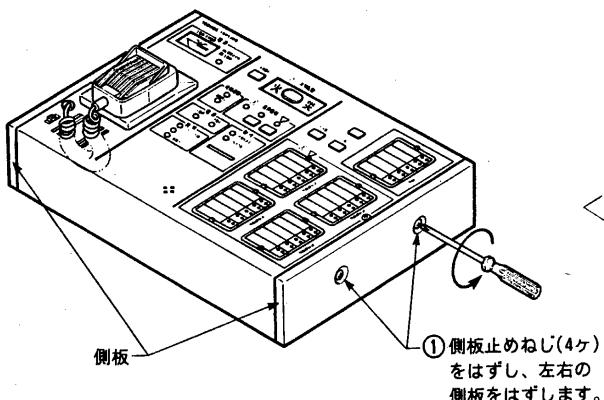
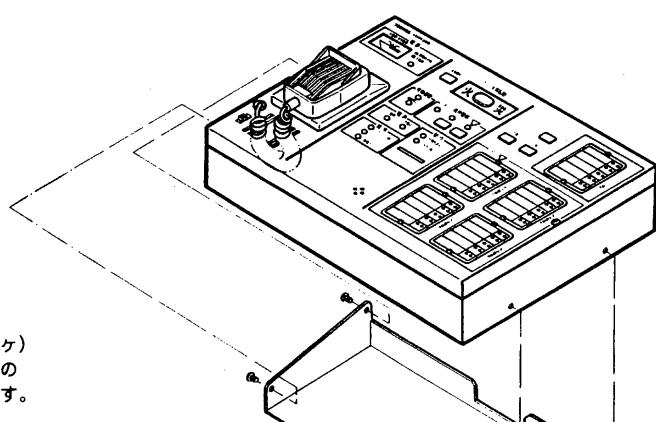
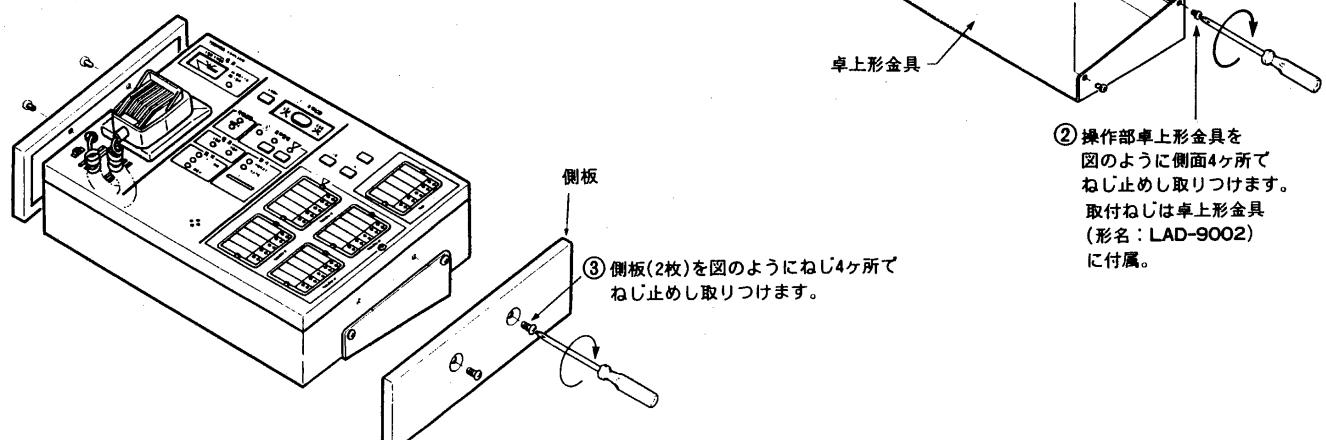
ラック（または盤）埋め込み使用の場合………ラックマウント形金具（受注生産品）が必要となります。

卓上形使用の場合の金具の取り付けかた

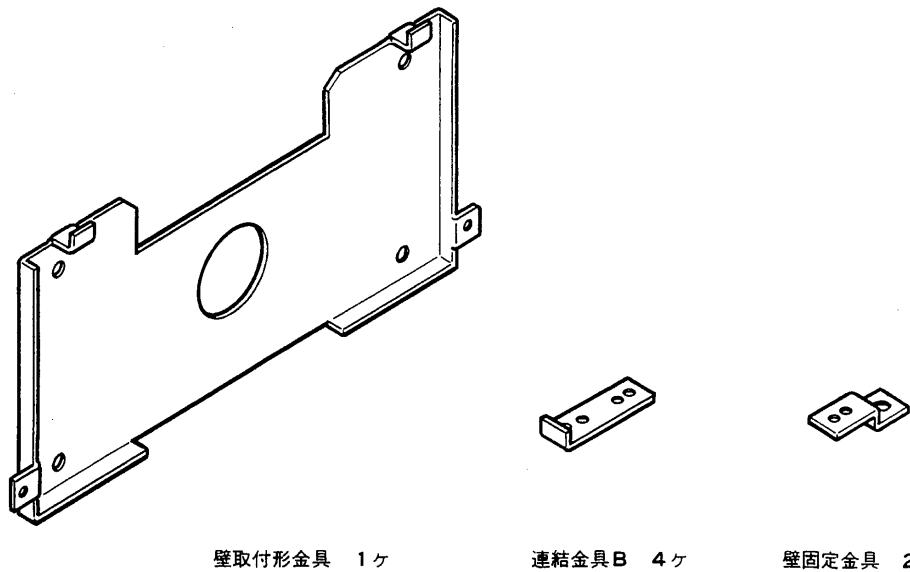
● 卓上形でご使用の場合は卓上形金具（形名：LAD-9002)(別売）が必要です。
卓上形金具は次の取付金具で構成されています。

卓上形金具　1ケ　　　卓上形連結金具A　2ケ　　　連結金具B　2ケ

● この金具を使って次の手順で卓上形金具を取り付けます。連結金具は使用しません。

手順 1

①非常業務リモコンの側板をはずし　　　②卓上形金具を取り付け

壁取付形使用の場合の壁への取り付けかた

● 壁に取り付けてご使用の場合は壁取付形金具（形名：LAD-9003)(別売）が必要です。
壁取付形金具は次の取付金具で構成されています。

壁取付形金具　1ヶ　　連結金具B　4ヶ　　壁固定金具　2ヶ

この金具を使って次の手順で壁へ取り付けます。連結金具は使用しません。

手順1

①付属の取付用型紙を使って

(1)非常起動スイッチの位置が床面から1.5m以内

(2)最下部の階別選択スイッチの位置が床面から0.8m以上

の位置にくるように、非常業務リモコン用の取付用型紙を壁に貼り付けてください。

なお、操作の妨げにならないよう左右0.3m、前面1m以内には障害物等がないような場所を選んでください。

②取付用型紙の「アンカーボルトの位置」4ヶ所に
アンカーボルトを打ち込んでください。

（板壁に取り付ける場合はねじを使用してください。）

手順2

③壁取付金具を壁に取り付けます。

壁面

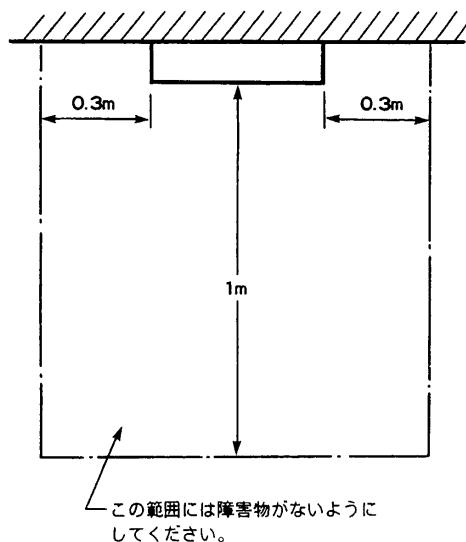
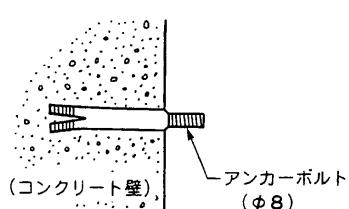
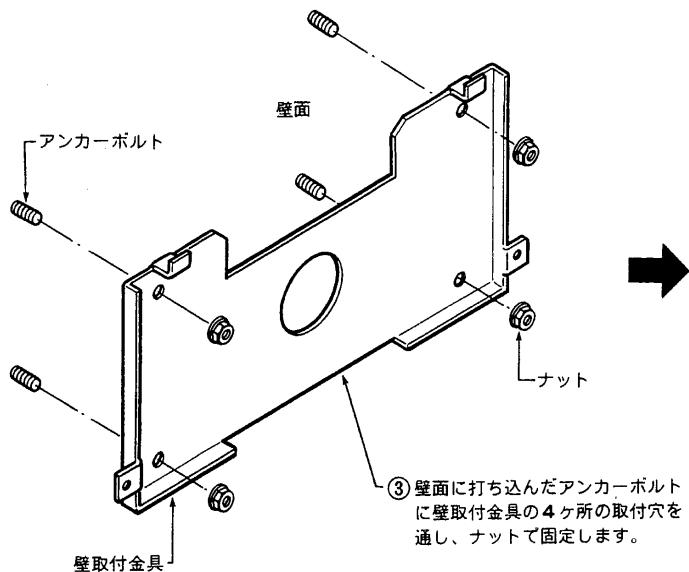
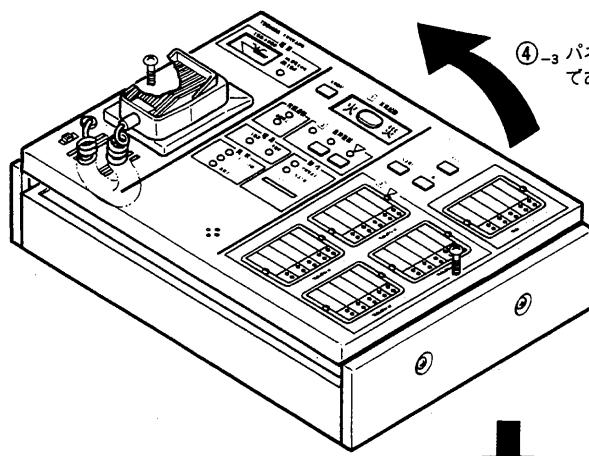
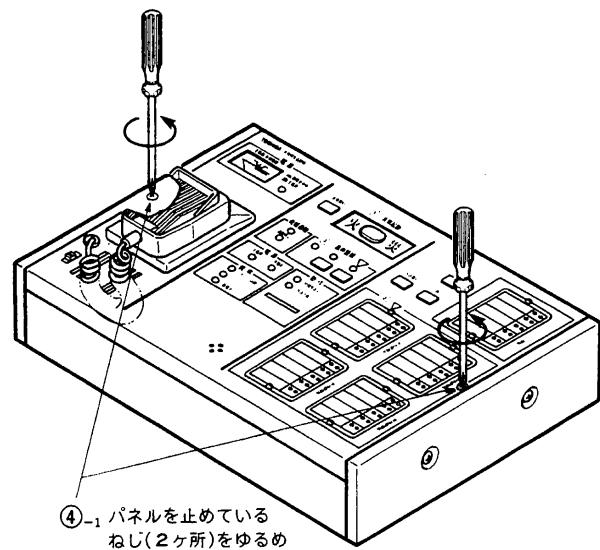
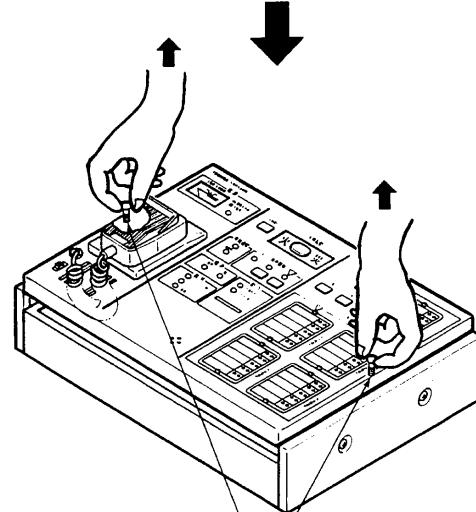
アンカーボルト

ナット

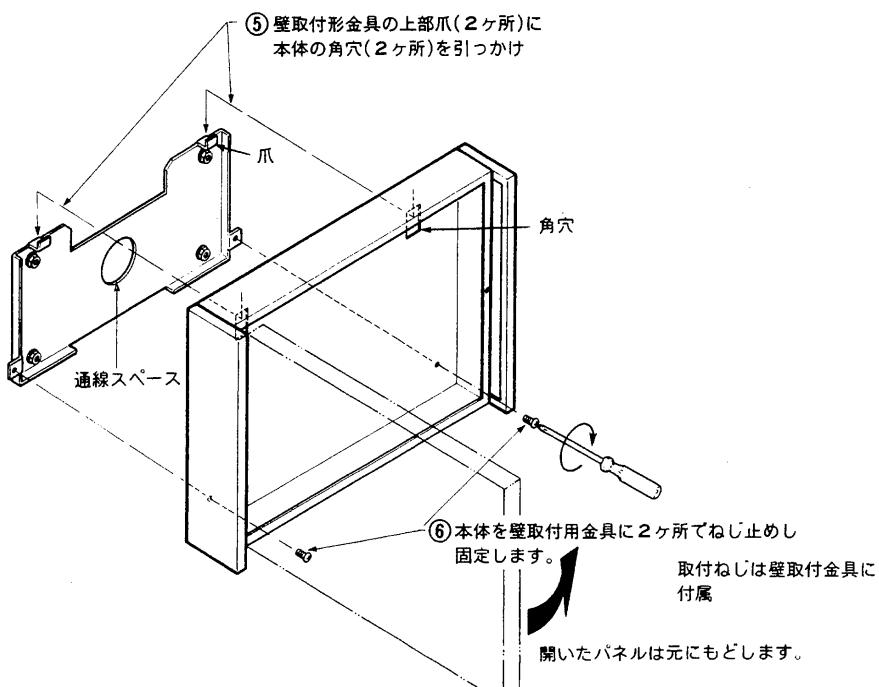
③壁面に打ち込んだアンカーボルトに壁取付金具の４ケ所の取付穴を通し、ナットで固定します。

壁取付金具

④非常業務リモコンのパネルをあけ

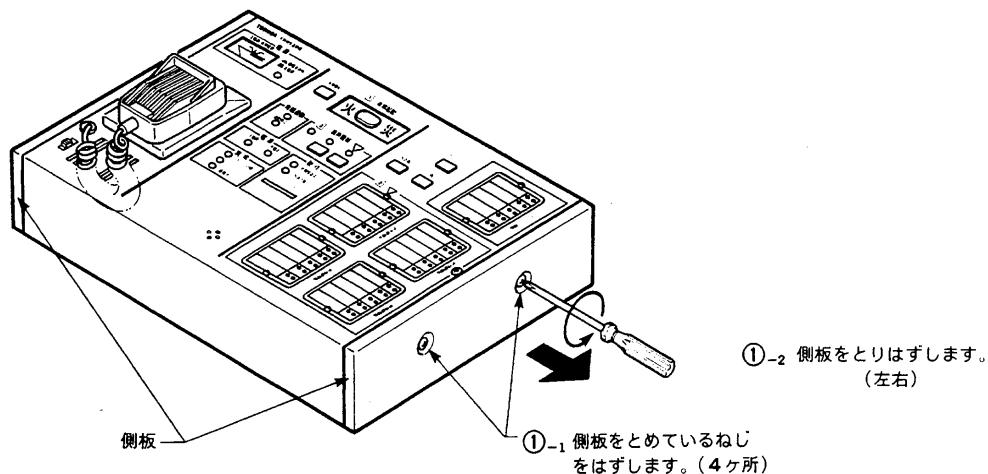
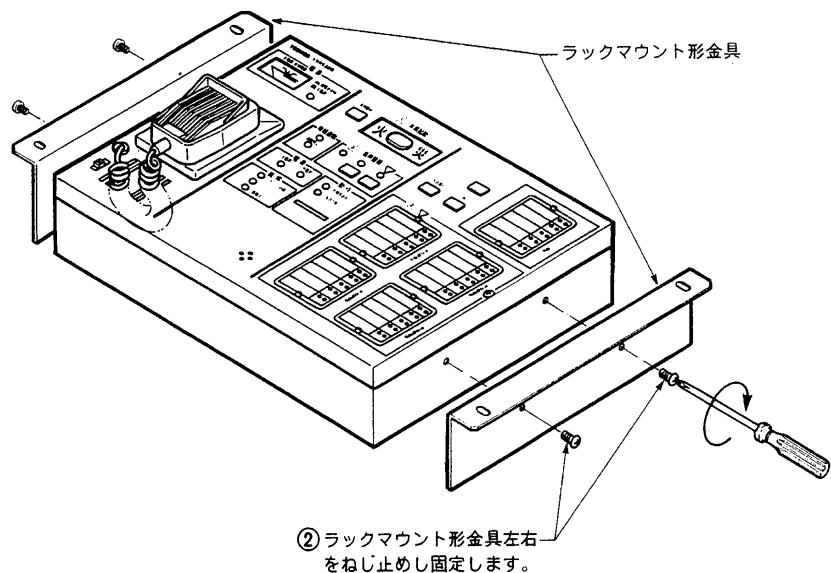
④$_{-1}$ パネルを止めているねじ(２ヶ所)をゆるめ

④$_{-2}$ ゆるめたねじを両手で持ってパネル全体を手前に止まるまで引き出します。

④$_{-3}$ パネルを左開きであけます。

⑤壁取付金具に本体を引っかけ　⑥取付ねじで固定します。

ラック(または盤)埋め込み使用の場合の金具の取り付けかた

- ラックまたは盤等に埋め込んでご使用の場合はラックマウント金具（受注生産品）が必要です。
- このラックマウント形金具を使ってラックマウントまたは盤に埋め込んでください。

手順1

①側板を取りはずします。

②ラックマウント形金具を取り付けます。

接続のしかた

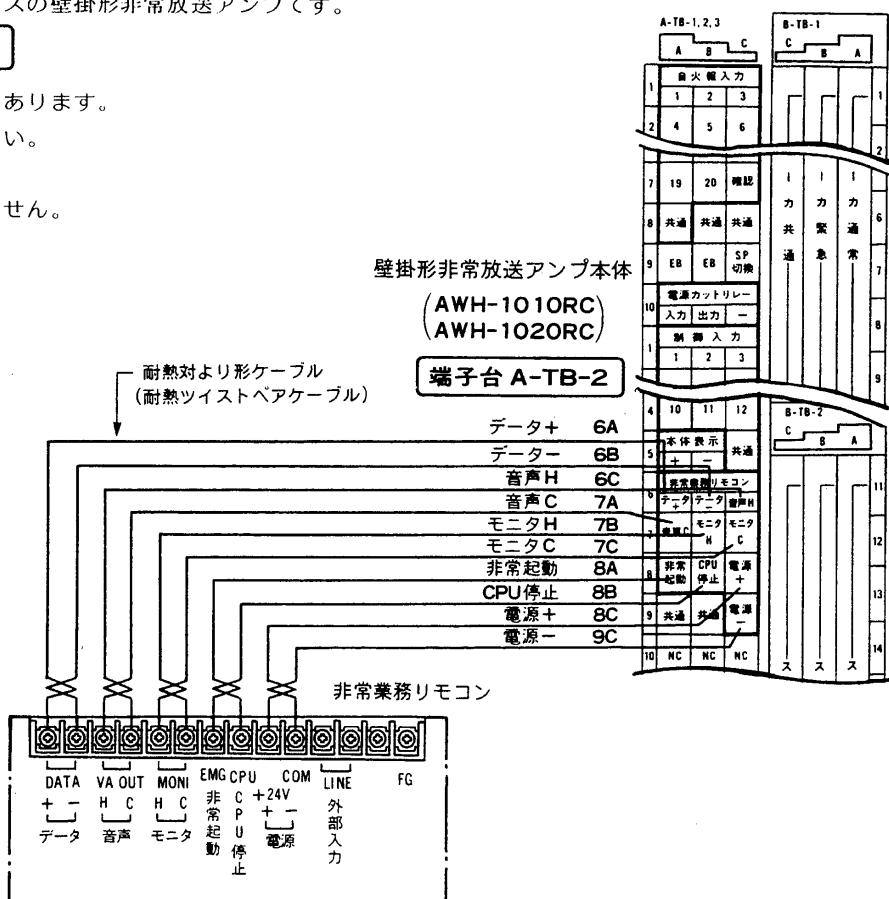
- 本機が接続できる機器は次のシリーズの壁掛形非常放送アンプです。

- 接続用端子はパネルをあけた内部にあります。
- 下図のように本体と接続してください。

ご注意

下記シリーズの本体との接続はできません。

AWF-1000R　シリーズ
AWF-1000RAシリーズ
AWF-1000RBシリーズ
AWF-1001R　シリーズ
AWF-1002R　シリーズ
AWF-1003RAシリーズ

- 2台目の非常業務リモコンも同様に接続します。

- 配線は必ず**耐熱対より形ケーブル(耐熱形ツイストペアケーブル)**をご使用ください。
  (2本ずつが撚ってある耐熱ケーブル)
- ツイストペアケーブルを使用しないと誤動作や、音声への伝達ノイズとびこみの原因となりますので必ずツイストペアケーブルを使用してください。

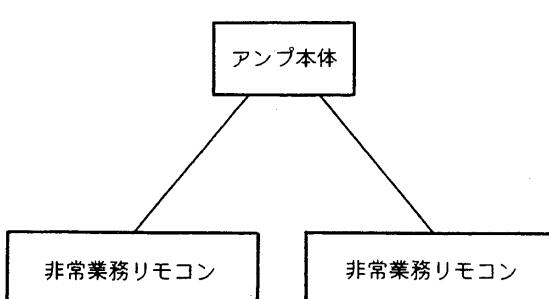
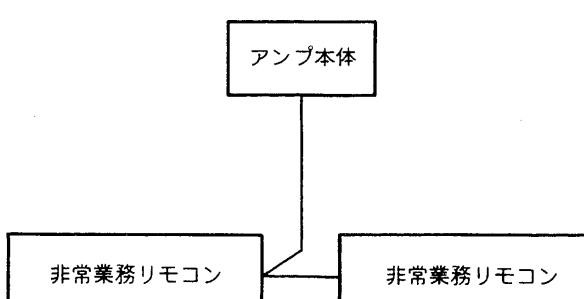
- 許容線路抵抗は下表のとおりです。線路抵抗値が許容線路抵抗以内になるように線径を選んでください。
- 電源線の線路抵抗が1対では許容値をオーバーする場合は6対以上(4対は制御用)のケーブルを使用し、電源として2対以上をパラ接続して許容線路抵抗値以内におさまるようにケーブルを選定してください。

許容線路抵抗値

電源線(1対)	制御線(4対)
3Ω (1本あたり1.5Ω)	50Ω (1本あたり25Ω)

耐熱対より形ケーブルの線路抵抗値(1線あたり)

線経	抵抗値
φ0.65mm	約58Ω/km
φ0.9mm	約30Ω/km
φ1.2mm	約17Ω/km
φ1.6mm	約10Ω/km

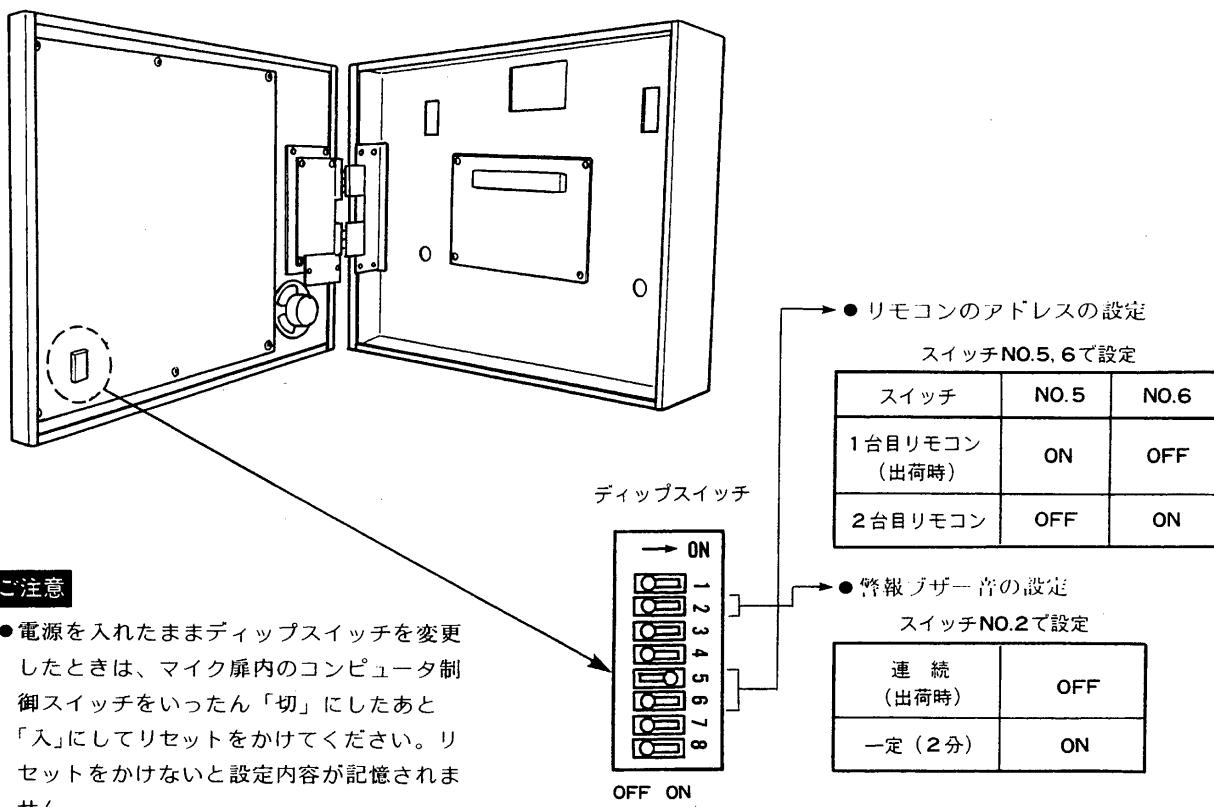
- 非常業務リモコンを2台接続するときは、リモコンで渡り配線はせずに必ず本体で分岐し、各リモコンへ配線するようにしてください。

初期設定

●使用する前に扉側の内部基板上のディップスイッチを設定する必要があります。
次の手順で設定してください。
①アドレスの設定
本機が１台目の非常業務リモコンであるか、２台目であるかを設定する必要があります。
②警報ブザー音の設定
リモコン通信異常および蓄電池異常時等の警報ブザー音の鳴り時間を連続または一定時間（２分）のどちらかに設定できます。

スイッチ	NO.5	NO.6
1台目リモコン（出荷時）	ON	OFF
2台目リモコン	OFF	ON

連続（出荷時）	OFF
一定（2分）	ON

ご注意

●電源を入れたままディップスイッチを変更したときは、マイク扉内のコンピュータ制御スイッチをいったん「切」にしたあと「入」にしてリセットをかけてください。リセットをかけないと設定内容が記憶されません。

取付、接続が完了したら

●取付、接続が完了したら、次の手順で壁掛形非常放送アンプ本体の電源を投入し、動作確認を行なってください。

① **初期設定を行なってください。**………上記参照

↓

 壁掛形本体の主電源スイッチを「入」にし、AC100Vを入力してください。
（壁掛形非常放送アンプの取扱説明書をご参照ください。）

↓

 取扱説明書に従って動作確認を行なってください。

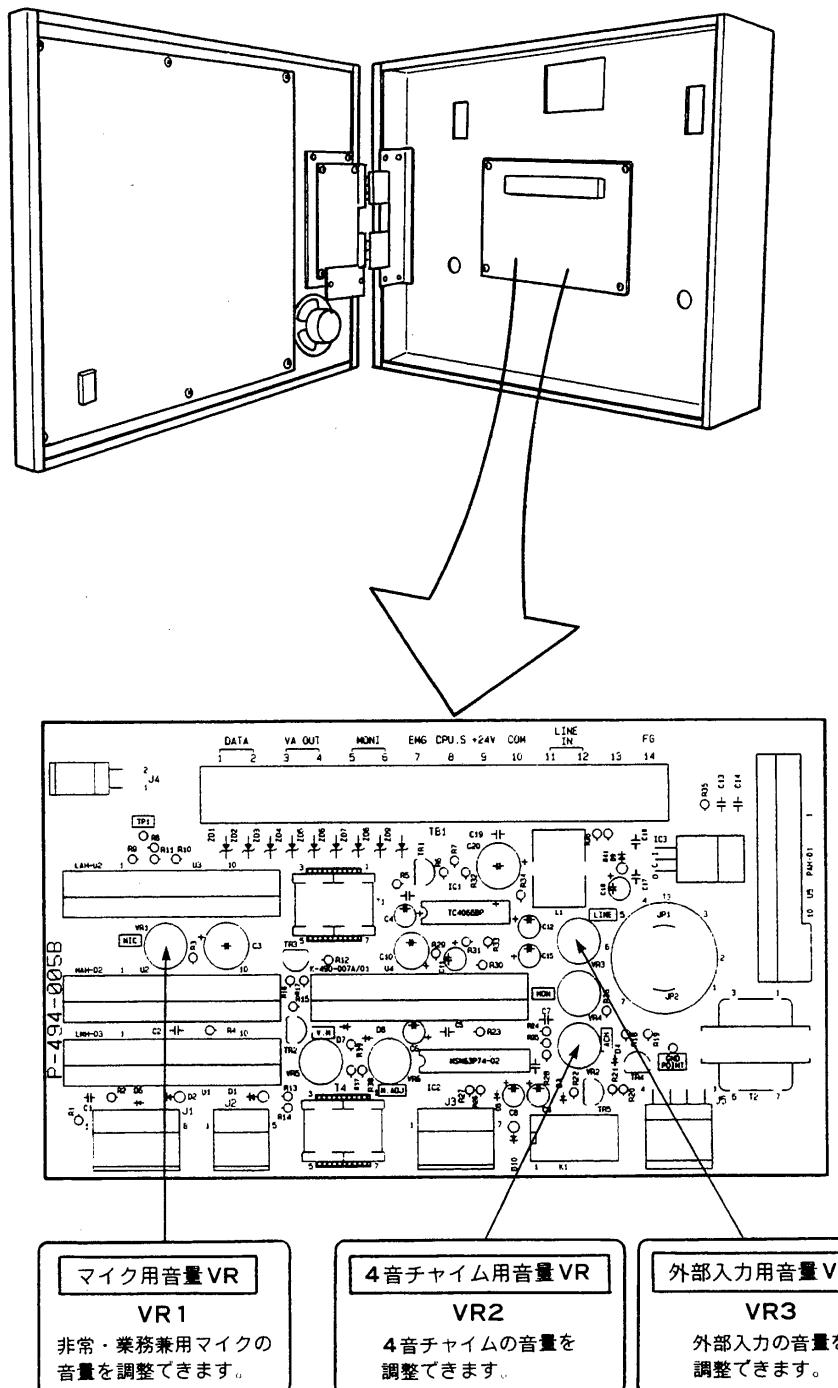
調整のしかた

非常・業務兼用マイク、外部入力、４音チャイムの音量の調整

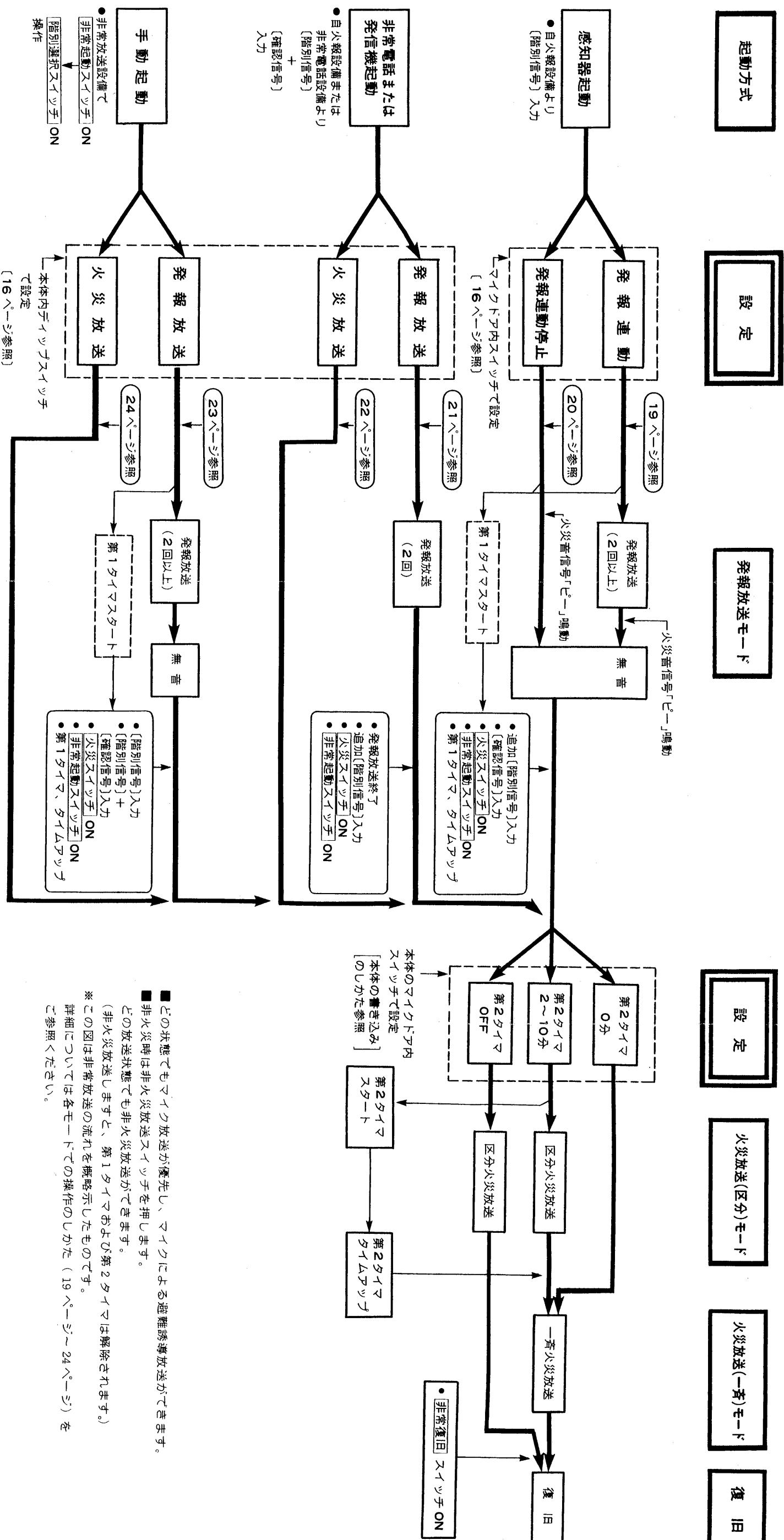
● 非常業務兼用マイク、外部入力、４音チャイムの音量は、出荷時定格出力がでるように調整されています。これらの音量を調整する場合(特に小さくて大きくする場合)は、**いま一度下記の事項の点検を行なってください。**

①スピーカが過負荷になっていませんか……スピーカのワットの合計値はアンプの出力(ワット)合計値以下でなければなりません。

②スピーカアッテネータが正しく選定、接続されていますか……使用スピーカに適合したアッテネータが必要です。誤接続されると業務放送も影響をうけます。

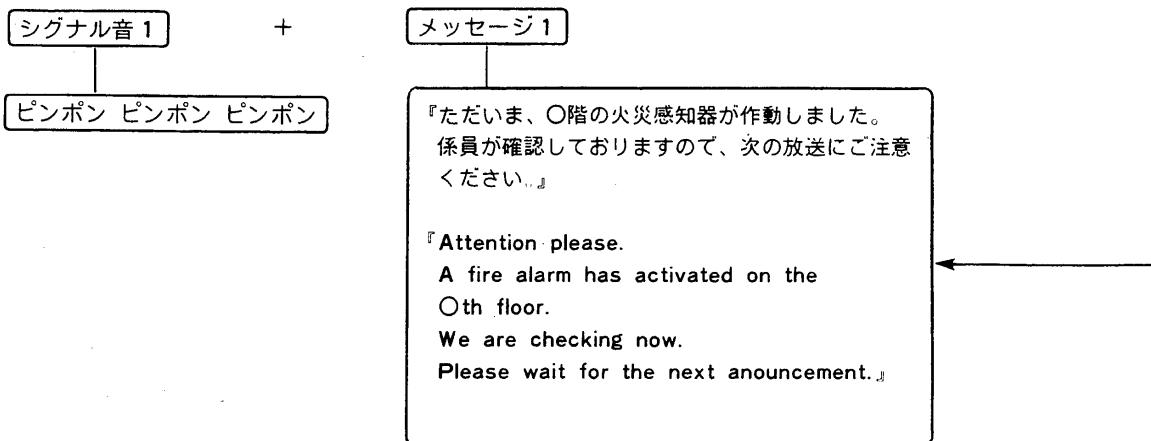
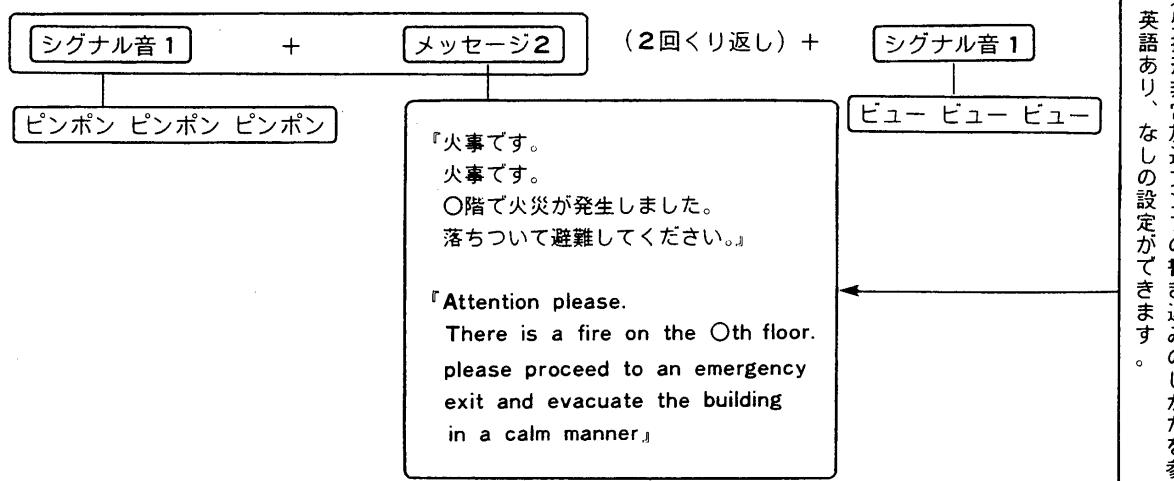
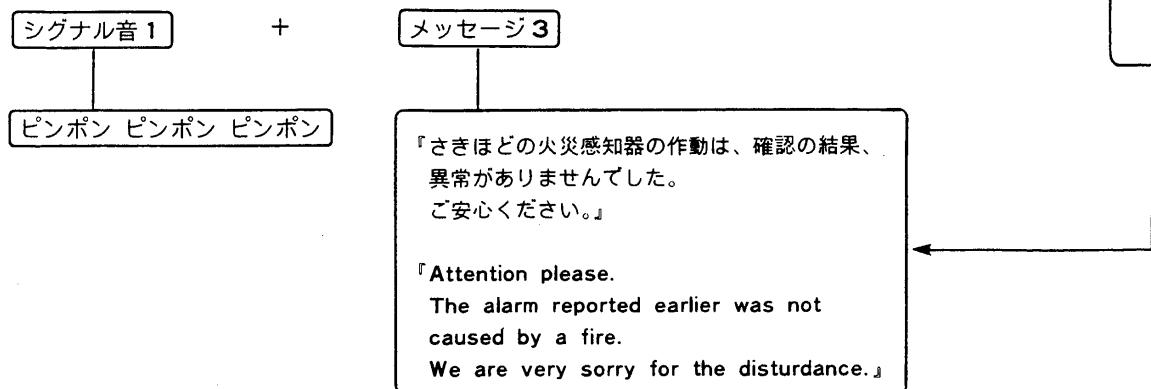
● 非常・業務兼用マイク、外部入力および４音チャイムの音量は、リモコン内部の半固定ボリュームで調整できます。

非常放送のしかた

■非常放送設備は火災発生時に音声合成による音声警報（シグナル音＋メッセージ）を自動的に送出します。
■起動方式および設定により動作（操作方法）が異なります。（下図をご参照ください。）
あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。

■どの状態でもマイク放送が優先し、マイクによる避難誘導放送ができます。
■非火災時は非火災放送スイッチを押します。
どの放送状態でも非火災放送ができます。
（非火災放送しますと、第1タイマおよび第2タイマは解除されます。）
※この図は非常放送の流れを概略示したものです。
詳細については各モードでの操作のしかた（19ページ～24ページ）をご参照ください。

非常放送の流れ

音声警報について

■非常放送時に的確な情報伝達と避難誘導をするための音声合成による放送です。
シグナル音とメッセージの組み合わせで構成され、次の3種類があります。

● **発報放送〔女声〕**……発報放送モード時2回くり返し放送されます。
（感知器起動、手動起動時は、連続くり返しに設定変更できます。）
設定方法は、壁掛形非常放送アンプの書き込みのしかたを参照ください。

● **火災放送〔男声〕**……火災放送モード時、連続してくり返し放送されます。

● **非火災放送〔女声〕**……非火災放送モード時、2回くり返し放送されます。

各種設定について

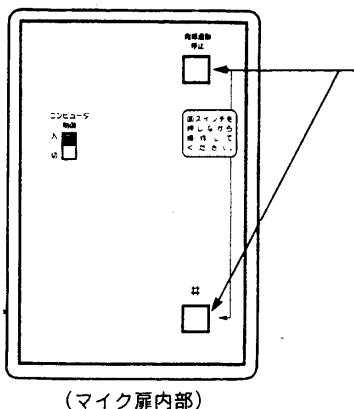
■発報連動/発報連動停止の設定…〔感知器起動時の動作モードの設定〕

〔動作モード〕 **発報連動** ：出火階、連動階に発報放送が放送されます。

発報連動停止 ：発報放送は放送されず、本機の火災音ブザーが鳴動します。

発報連動一斉 ：すべての階に発報放送が放送されます。

〔設定方法〕 マイク扉内のスイッチ操作で設定します。

（マイク扉内部）

スイッチを押しながら発報連動停止スイッチを押します。

- 押すたびに順次設定モードが変わります。
- 設定モードにより表示が次のとおり点灯します。

モード	⑧連動一斉表示灯	⑨連動停止表示灯
連　動	消　灯	消　灯
連動一斉	点　灯	消　灯
連動停止	消　灯	点　灯

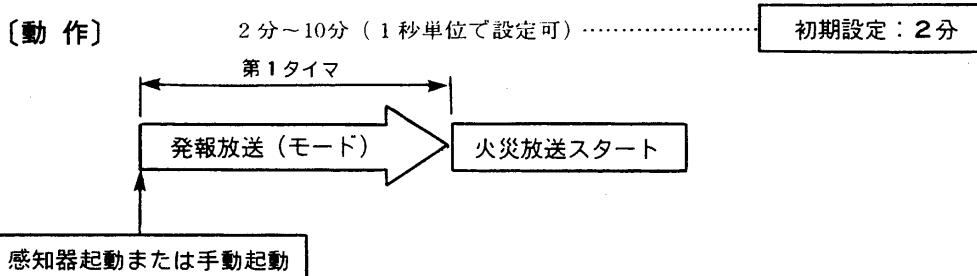
■発報放送/火災放送の設定…〔非常電話または発信機起動時、手動起動時の動作モードの設定〕

〔動作モード〕 **発報放送** ：選択された階に発報放送が放送されます。

火災放送 ：選択された階に発報放送が放送されず、火災放送が放送されます。

〔設定方法〕 壁掛形非常放送アンプ本体にて設定します。
（壁掛形非常放送アンプの取扱説明書を参照してください。）

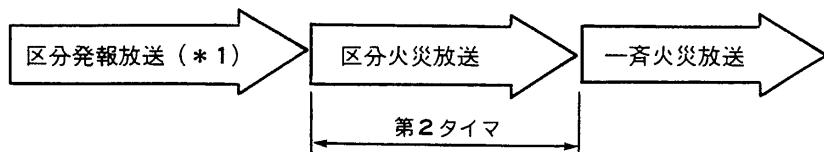
■第１タイマの設定…〔感知器起動時、手動起動時から火災放送へ自動的に移行するタイマ（第１タイマ）の時間設定〕

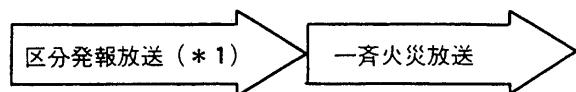
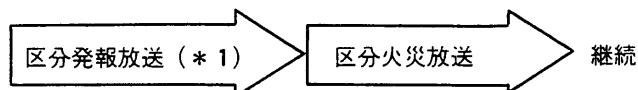
〔動作〕 ２分～10分（１秒単位で設定可）…………………… **初期設定：２分**

- 火災放送は第２タイマの設定により区分火災放送と一斉火災放送のどちらかとなります。
- 壁掛形非常放送アンプのマイク扉内のスイッチ操作で『書き込み』設定します。
- 壁掛形非常放送アンプの書き込みのしかたを参照ください。

■第2タイマの設定…〔区分火災放送から一斉火災放送へ自動的に移行するタイマ(第2タイマ)の時間設定〕

下記の3種類の設定ができます。

出荷時は第2タイマは2分に設定してあります。

〔区分火災放送2～10分の後一斉火災放送へ移行するモード〕：第2タイマ2～10分設定

第2タイマは2～10分の間で任意に（1秒単位で）設定できます。

〔区分発報放送後即一斉火災放送へ移行するモード〕：第2タイマ0分設定

〔区分火災放送を継続し、一斉火災放送へ自動的には移行しないモード〕：第2タイマ OFF 設定

（＊1）起動方式設定により区分発報放送がない場合もあります。

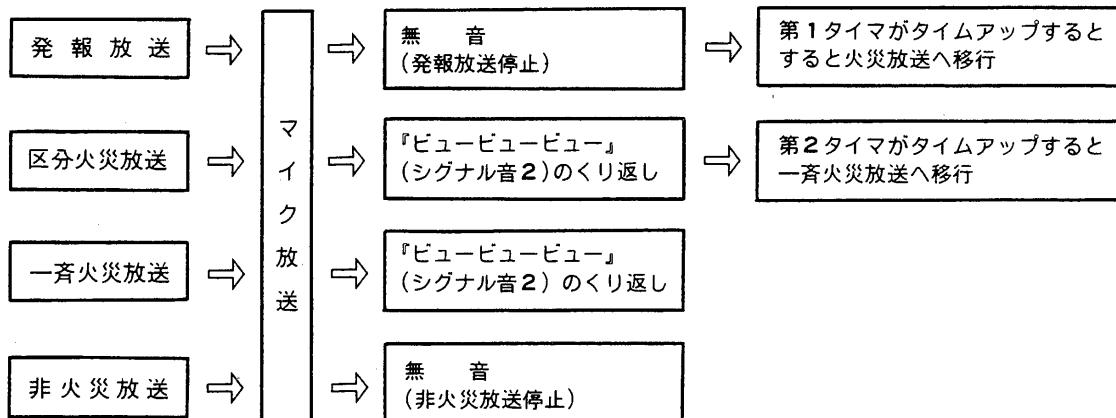
〔設定方法〕

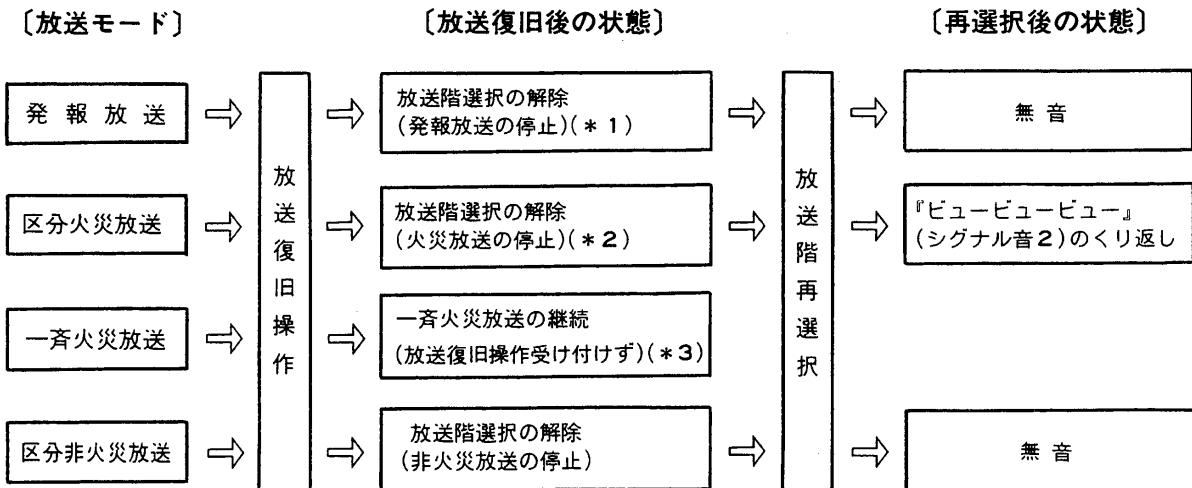
壁掛形非常放送アンプのマイク扉内のスイッチ操作で『書き込み』設定します。

壁掛形非常放送アンプの書き込みのしかたを参照ください。

マイク放送および放送復旧操作について

■マイク放送について

●マイク放送はどの状態においても、音声警報放送より優先します。
●各放送モードでマイク放送したときの動作は次のとおりです。

■放送復旧操作について

●各放送モードで放送復旧操作（放送復旧スイッチ㉗の操作）したときの動作は次のとおりです。

（＊1）第1タイマは、継続動作します。
（＊2）第2タイマは、継続動作します。
（＊3）放送階の解除はできません。一斉火災放送の解除は、非常復旧スイッチを
操作して行ないます。

非常放送のしかた ①

感知器起動 （発報連動の場合） 発報放送あり

非常放送のしかた ②

感知器起動 （発報連動停止の場合） 発報放送 なし

非常放送のしかた ③

発信機・非常電話起動（発報火災切換スイッチが 発報 側） 発報放送 あり

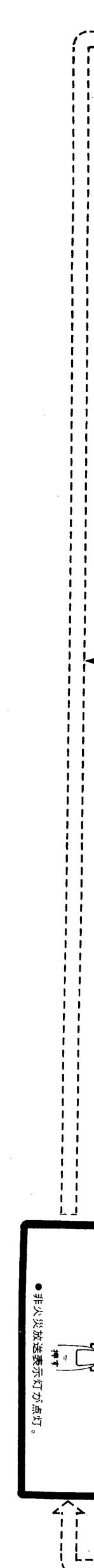
非常放送のしかた ④

発信機・非常電話起動　（発報火災切換スイッチが 火災 側）の場合

発報放送 なし

非常放送のしかた ⑤
手動起動 （発報火災切換スイッチが 発報 側）の場合 発報放送 あり
火災発生
1 非常起動スイッチを押します。
非常起動
火 災
押す
● 火災灯が点滅。
● 放送階選択指示灯が点滅。
音声ガイドがモニタスピーカから鳴ります。
音声ガイド
放送階を選択せよ
2 放送階選択スイッチ（一斉スイッチ）を押します。
作動表示灯 点灯
押す
● 火災灯点滅
● 発報放送表示灯が点灯
発報
● 火災放送移行の第１タイマスタート（タイマ動作中は火災灯点滅）
発報放送 が２回以上くり返し放送されます。
発報放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『ただいま、火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』
その後、無音となります。
● 発報放送表示灯が点滅。
3 火災を確認します。
注意
● 次の場合自動的に火災放送されます。
● 感知器、発信機、非常電話の起動。
● 第１タイマのタイムアップ。
● 放送復旧スイッチを押すことにより発報放送の停止（第１タイマは継続）ができます。
火災時
非火災時
4 火災スイッチを押します。
火災
押す
● 火災灯、火災放送表示灯が点灯。
3 非火災スイッチを押します。
非火災
押す
● 非火災放送表示灯が点灯。
5 マイクで放送します。
トークスイッチ
トークスイッチを押しながらマイク放送します
● 火災放送表示灯が点滅。
第２タイマの設定『０分』の場合
火災放送 がくり返し放送されます。
火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ピュー ピュー ピュー』
非火災放送 が２回放送されます。
非火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』
その後は無音となります。
● 非火災放送表示灯が点滅。
マイク放送終了後「ピューピューピュー」がくり返し放送されます。
● 火災放送表示灯が点滅。
第２タイマの設定『OFF』の場合
6 他の階に放送します。
放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。
押す
または
火災
押す
第２タイマのタイムアップ
7 すべての階に 火災放送 がくり返し放送されます。
火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です 火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ピュー ピュー ピュー』
● すべての階別作動表示灯が点灯。
ご注意
● 放送復旧することはできません。
8 マイク放送または 火災放送 します。
または
火災
押す
● すべての階に放送されます。
● マイク放送後は、『ピュー ピュー ピュー』のくり返し放送となります。
鎮火
9 自火報設備を復旧させます。
10 非常復旧スイッチを押します。
非常復旧
押す

非常放送のしかた ⑥

手動起動 （発報火災切換スイッチが 火災 側） 発報放送 なし

業務放送のしかた

マイク放送

1 放送したい場所を選択します。

- 全回線一斉に緊急放送したい場合は一斉放送スイッチ㉙を押します。
- 回線別に放送したい場合は放送階選択スイッチ㉞を押します。
- ブロック放送したい場合は、ブロック選択スイッチ㉚を押します。

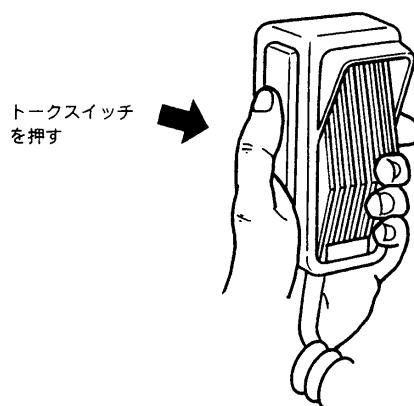
➡ 選択された回線またはブロック指定された回線の階別作動表示灯㉝が点灯し、放送可能表示灯⑱が点灯します。
電力増幅器の電源が入ります。
緊急放送時(アッテネータのきかない放送時)は、放送階選択指示灯㉛が点灯します。

● ブロックスイッチで放送する場合

- ブロック放送をするとき……………………………………ブロック選択スイッチ㉚を押します。
- ブロック放送を終了したとき………………………………選択したブロック選択スイッチ（階別作動表示灯㉝の点灯しているスイッチ）を再度押すか、放送復旧スイッチ㉗を押します。
- 2以上のブロックに放送するとき…………………………放送したいブロックスイッチ㉚を順に押します。
- ブロックの中で放送したくない場所があるとき…………放送したくない、不要な場所の放送階選択スイッチ㉞を押します。（階別作動表示灯㉝が消え、選択が解除されます。）
- 選択したブロックに放送したい場所を追加するとき……放送したい階別選択スイッチ㉞を押します。（階別作動表示灯㉝が点灯し、追加されます。）

ご注意 ブロック選択スイッチの選択先は、壁掛形非常放送アンプ本体のテンキースイッチで書き込んだプログラムにより、本体と同様になります。

2 非常・業務兼用マイクロホン③を使って放送します。

- 放送前の予告としてチャイム音(4音)を放送したい場合は、チャイムスイッチ㉘を押します。
- マイクロホンをはずし、トークスイッチを押しながら放送します。

3 放送が終了したら放送復旧スイッチ㉗を押します。

ご注意 放送階選択スイッチ㉞を再度押して、放送階を解除することもできます。

放送復旧

押す

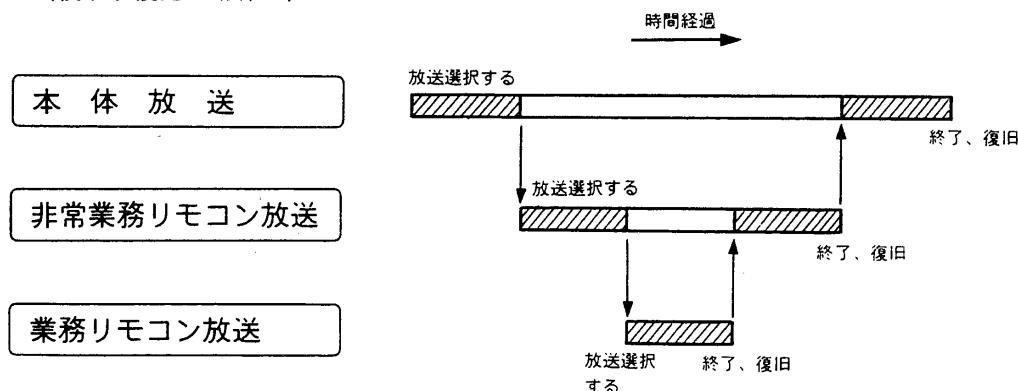
■業務放送の優先順位について

- 本体でのプログラムの書き込みにより、次の例のように最大4段階に優先順位をつけることができます。
  同一優先内は、後取りまたはミキシングどちらかに設定できます。
  (設定のしかたは壁掛形非常放送アンプの〝書き込みのしかた〟をご参照ください。)

(優先順位の例)

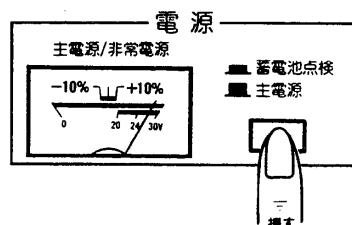
放送内容(入力)	第1優先	第2優先	第3優先	第4優先
時報チャイム	○			
本体放送		○		
非常業務リモコン		○		
業務リモコン			○	
ライン1入力				○

- 出荷時は、全ての放送が第1優先で後取り優先に設定されています。

(後取り優先の動作例)

保守点検のしかた(保守点検者の方へ)

非常用放送設備の保守点検は有資格者(消防設備士、第2種消防設備点検資格者)でなければ行なえませんのでご注意ください。

非常用蓄電池のチェックのしかた

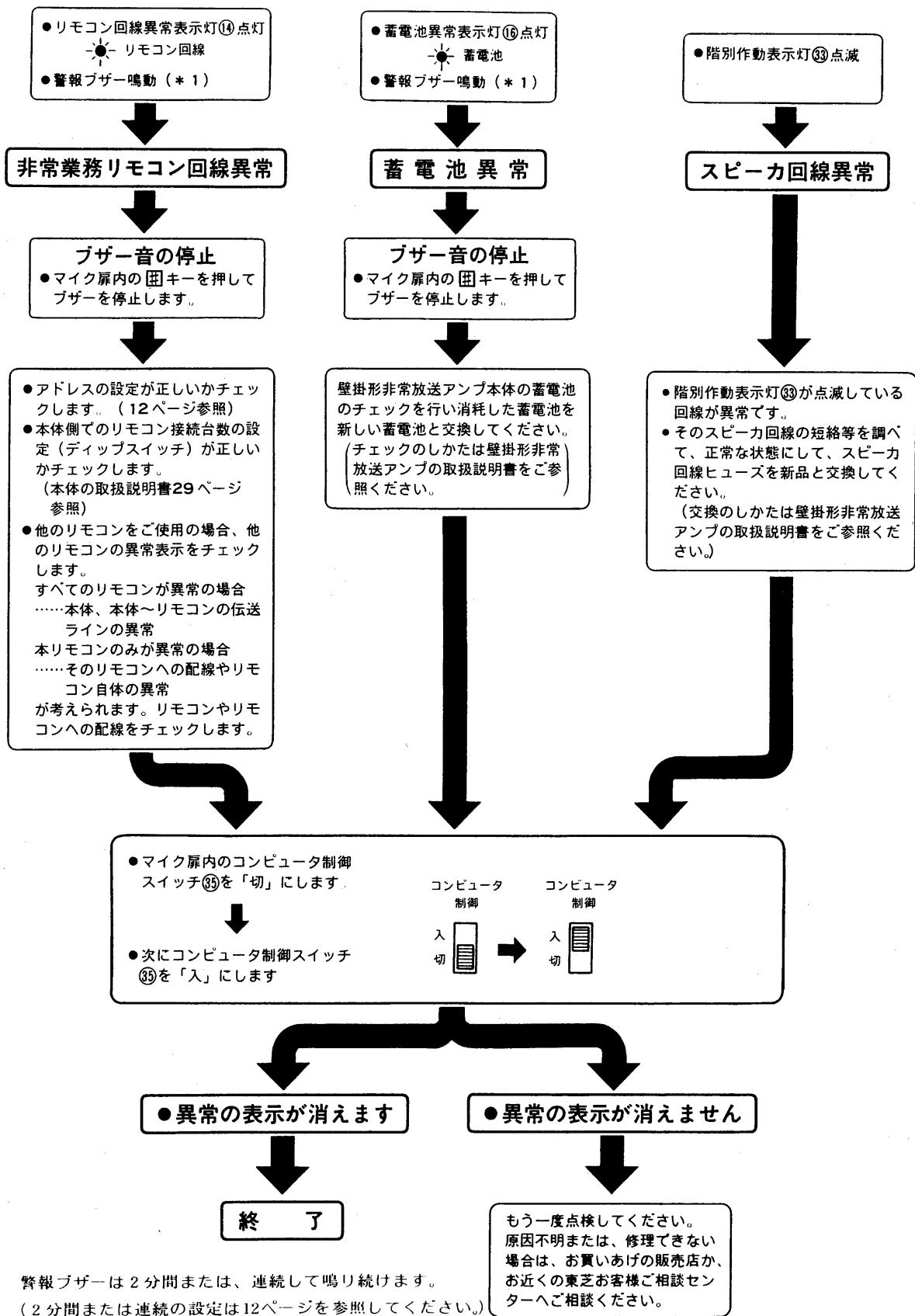
- 蓄電池点検スイッチ⑤でチェックします。点検スイッチ⑤を押したとき、主電源/非常電源電圧計④の指針が24〜30V線の間に振れれば十分です。
  この範囲内に振れないときは蓄電池が寿命ですのですぐに新しい蓄電池との交換が必要です。なお、蓄電池点検は1回5秒以内とし、5秒以上点検スイッチを押さないでください。
- 非常用蓄電池の標準寿命は約4年ですが、非常時に機器を正しく動作させるためにも上記の方法でチェックし、早めの交換をしてください。

※ 本機はトリクル充電方式を採用しており常時充電しております。

自動点検について

- 壁掛形非常放送アンプ本体では、常に非常業務リモコンとの通信状態の点検を自動的に行ないます。
- また、24時間ごとに蓄電池の電圧を点検しています。

異常発生時の処置のしかた

- 非常業務リモコンと本体の通信異常および本体の蓄電池異常が自動点検時発見されると異常表示灯が点灯し、警報ブザーが鳴ります。
- スピーカ回線の短絡等によりスピーカ回線保護ヒューズが溶断しますと、その階別作動表示灯㉝が点滅表示します。
- 上記の異常発生時は、次のように処置してください

＊１　警報ブザーは２分間または、連続して鳴り続けます。
（２分間または連続の設定は12ページを参照してください。）

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、お買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは機器の形名、壁掛形非常放送アンプ本体の形名およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

仕　様

項目	内容
形名	ARC-1000RC(10局)、ARC-2000RC(20局)
使用電源	DC24V(本体より受電)
消費電流	DC 600mA
ひずみ率	0.5%以下
S／N	55dB以上(非常業務兼用マイク) 65dB以上(外部入力)
周波数特性	300～6000Hz ± 3dB以内(非常業務兼用マイク) 50～15000Hz ± 3dB以内(外部入力)
入力回路	非常・業務兼用マイク　−46dB　600Ω　不平衡　1回路 外部入力　−20dB　10kΩ　不平衡　1回路
出力回路	ライン出力　0dB　600Ω　平　衡　1回路
音声警報メッセージ※	感知器発報放送……ただいま○○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので次の放送にご注意ください。(女声) 火災放送……………火事です。火事です。○○階で火災が発生しました。落ちついて避難してください。(男声) 非火災放送…………さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。(女声)
音声警報シグナル音	非常用放送設備委員会統一音※
出力制御	放送階選択…………ARC-1000RC：10局＋一斉(非常・業務) ARC-2000RC：20局＋一斉(非常・業務) ブロック選択………5局
音声警報手動制御	火災放送スイッチ・非火災放送スイッチ付
LED表示	階別作動表示………(緑)ARC-1000RC：10回線、ARC-2000RC：20回線 出火階表示…………(赤)ARC-1000RC：10回線、ARC-2000RC：20回線 回線短絡表示………階別作動表示点滅方式 その他………………発報放送表示(橙)、火災放送表示(赤)、非火災放送表示(緑)、連動停止表示(赤)、連動一斉表示(赤)
モニタスピーカ	1W/8Ω　音量調節器(3段切換式)付
出力レベル計	5ポイントLED
主電源、非常電源電圧計	常時受電電圧を表示、点検時本体内蔵のバッテリー電圧を表示
塗装色	パネル………………ブラウングレー(マンセル10YR4/1近似色) 本体・側板…………メインカラー(マンセル3.7YR7.7/0.1近似色)
質量	約6.0kg
その他	• 卓上使用時………手前に傾斜をもたせて設置するときは卓上形金具(形名LAD-9002…別売)が必要です。 • 壁取付使用時……壁取付金具(形名LAD-9003…別売)が必要です。 • ラックマウント時…ラックマウント金具(受注生産品…別売)が必要です。 ※音声警報部は本体(壁掛形非常放送アンプ)に収納
付属品	取扱説明書…………………………………………… 1 取付用型紙…………………………………………… 1 非常放送のしかた(カードケース入り)………………… 1 東芝お客様ご相談センター一覧表………………………… 1

東芝ライテック株式会社 システム事業部 〒140-8660 東京都品川区南品川2丁目2番13号(南品川JNビル) TEL (03) 5463−8779

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。